

第 550 回霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会 議事録

日 時	令和 5 年 1 月 19 日 (木) 午前 10 時 22 分	
場 所	土浦市真鍋 5-17-26 土浦合同庁舎 本庁舎 第 1 会議室	
議 題	<p>議題等</p> <p>(1) 第 2 種共同漁業(張網漁業)及び第 1 種区画漁業(真珠養殖業)に係る霞ヶ浦北浦海区漁場計画(案)について【諮問】</p> <p>(2) 公聴会の開催について【協議】</p> <p>(3) 令和 4 年度ワカサギ人工ふ化放流事業に伴う特別採捕許可について【報告】</p> <p>(4) その他</p>	
出席委員	1 番 鈴 木 幸 雄 3 番 大 崎 匠 6 番 薄 井 征 記 10 番 太 田 牧 人 13 番 小 原 一 八	2 番 海 老 澤 武 美 5 番 相 崎 守 弘 8 番 理 崎 茂 男 12 番 中 泉 義 美 14 番 加 納 光 樹
欠席委員	7 番 鈴 木 友 子	
県側出席者	農林水産部次長兼漁政課長 農林水産部漁政課調整・漁船係技師 霞ヶ浦北浦水産事務所所長 〃 漁業調整課長 〃 漁業調整課技師 〃 漁業調整課技師 〃 振興課長 〃 指導課長 水産試験場内水面支場長 〃 内水面資源部長 〃 内水面資源部首席研究員	青木 雅志 高野 萌慧 小曾戸 誠 益子 剛 飯田 隼人 鈴木 美奈 半澤 浩美 星野 尚重 海老沢 良忠 根本 隆夫 山崎 幸夫

事務局	事務局長 岡部 勤 係長 中山 敦司
傍聴人	なし
議事録署名人	10番 太 田 牧 人 12番 中 泉 義 美
議長	1 番 鈴 木 幸 雄
会議内容	開会 午前10時22分
岡部事務局長	〔開会宣言〕 〔資料確認後、鈴木会長に挨拶を依頼〕
鈴木幸雄会長	皆様にはお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。 令和5年の第1回目の委員会ということで、本年もよろしくお願いたします。 本日の議題は前回素案としてお示した「第2種共同漁業（張網漁業）及び第1種区画漁業（真珠養殖業）に係る霞ヶ浦北浦海区漁場計画（案）について」の諮問ほかとなっております。委員の皆様のおかげをもちまして、長期にわたりました漁業権に係る漁場計画の手続きも大詰めを迎えております。 また、例年でございますが、百年以上の歴史をもつワカサギ人工ふ化放流事業に関する報告もございます。 今後ともよりよい漁業を行っていただけるよう、本日も皆様に活発な御議論をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。 本年もよろしくお願いたします。
岡部事務局長	〔県に挨拶を依頼〕
青木次長	漁政課の青木でございます。新年を迎え最初の委員会に当たり御挨拶申し上げます。 鈴木会長をはじめ皆様方におかれましては、日頃より霞ヶ浦北浦の水産振興に御尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年からの社会情勢を振り返りますと、新型コロナウイルスは、発生から約3年が経とうとしており、現在、第8波の最中と言われておりますが、外食や旅行などの消費活動が徐々に戻りつつあるようで、水産業が受けたダメージも回復が望まれるところです。

しかし、昨年は、コロナや円安に加え、ロシアのウクライナ侵攻による世界的な経済不安から、水産分野でも燃油や電気、養殖餌料の価格高騰など大きな影響を受けております。

こうした中、県では、地球温暖化に伴う海洋環境や水産資源の変動などのリスクに備え、これらの影響を受けにくい新たな養殖産業の創出を進めているところであり、昨年11月には那珂湊漁港内でICTを活用したマサバの養殖実証事業を開始したところです。

また、元日の県の広報誌「ひばり」を御覧になった方もいらっしゃるかと思います。新たに開発した本県産キャビアを「霞ヶ浦キャビア」と銘打って、今後、市場拡大等を図って行くこととしております。

一方で、昨年の霞ヶ浦北浦の漁模様に目を向けますと、北浦では4年連続で深刻な不漁が続いており、霞ヶ浦においてもワカサギやエビの漁獲量が低迷するなど予断を許さない状況となっております。

特に、不漁対策につきましては、水産試験場による不漁要因の解明を急ぎ、有効な資源回復対策の検討を進めるとともに、シラウオのブランド化や未利用魚の活用方策の検討など限られた資源の高付加価値化を進めるほか、天然ウナギ資源の増大対策やコイ養殖の餌料高騰対策などにも取り組んでいこうと考えております。

さらに、県産水産物の消費拡大対策として、2月中旬から県内の飲食店で「いばらき地魚フェア」を開催し、コイ、シラウオなどを含め地元産品の需要拡大と認知度向上に取り組んでまいります。

本日は、張網と真珠養殖業の漁業権に係る海区漁場計画について諮問させていただきます。改正漁業法の下で初の漁場計画となりますが、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が霞ヶ浦北浦に明るい話題が多い年となることと委員の皆様様の益々の御健勝を祈念して、新年の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

岡部事務局長

続きまして次第3、議長の選出ですが、当委員会の会議規程第2条第2項の規定により、会長が議長を務めることになっておりますので、鈴木会長に議長をお願いいたします。

議長（鈴木幸雄会長）

それでは、議長を務めさせていただきます。
次第4の出席委員数の報告を事務局からお願いします。

岡部事務局長

出席委員数を報告させていただきます。
本委員会の委員定数は12名でございますが、欠員1名で、現在11名となっております。本日、出席している委員は10名で過半数を超えておりますので、漁業法第145条の規定により本日の委員会が成立していることを御報告いたします。

鈴木幸雄議長

ただ今の報告のとおり、本日の委員会は成立しております。
続きまして、次第5の議事録署名人ですが、私から指名いたします。
10番太田委員と12番中泉委員をお願いします。

鈴木幸雄議長

それでは、次第6の議題に入ります。
議題（1）の「第2種共同漁業（張網漁業）及び第1種区画漁業（真珠養殖業）に係る霞ヶ浦北浦海区漁場計画（案）について」、そして議題（2）の「公聴会の開催について」です。
密接に関連いたしますので、連続して議論させていただきたいと思っております。
また、議題1は県からの諮問となります。事務局からの説明をお願いします。

中山係長
飯田技師

（資料1-1 諮問文朗読）
（資料1-1 から参考資料（プロジェクター）により説明）

鈴木幸雄議長

ただ今の説明に対して御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

（委員）

（特になし）

鈴木幸雄議長

それでは、特にないようですので、続いて、議題（2）の説明をお願いします。

中山係長

（プロジェクターにより説明）

先ほど、諮問について説明しましたが、当委員会が海区漁場計画の諮問への答申に際し県に意見を述べるときは、漁業法第64条第5項の規定に基づきまして、あらかじめ期日及び場所を公示して公聴会を開き、当該海区において漁業を営む者、漁業を営もうとする者、その他の利害関係人の意見を聞かなければならないことになっています。

そのため、答申に先立ち、公聴会を開催する必要があります。

また、公聴会の開催については、霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会の公聴会に関する手続規程第2条に基づき、あらかじめ委員会で決議をしなければならないことになっています。

海区漁場計画案の作成にあたっては、これまで県が関係者からの意見を聴取したり、パブリックコメントを行ったりするなど、広く意見を募っているところですが、委員会としても漁業者や利害関係人からの意見を聞くという手続きをとることとなります。

私からの説明は以上です。御審議よろしく願いいたします。

鈴木幸雄議長

ただ今、事務局から説明がありましたが、県から諮問のありました海区漁場計画案については、この内容で公聴会を開催して利害関係人の意見を聞いた上で、答申することに御異議ございませんか。

(委員)

(「異議なし」との声)

鈴木幸雄議長

続いて事務局からの説明をお願いします。

中山係長

資料2を御覧ください。公聴会開催の公示案を読み上げます。

(公示案を朗読)

以上が公示案となります。

なお、順調に手続きが進んだ場合ですが、2月2日に県報掲載の予定です。御審議よろしく願いいたします。

鈴木幸雄議長

ただ今の説明に御意見、御質問がございましたらお願いします。

(委員)

(特になし)

鈴木幸雄議長

それでは特にないようですので、公聴会については、令和5年2月16日、午前10時から土浦合同庁舎で行うことに決定いたします。

鈴木幸雄議長 続いて、議題（３）の「令和４年度ワカサギ人工ふ化放流事業に伴う特別採捕許可について」水産事務所からの説明をお願いします。

鈴木技師 （資料３（プロジェクター）により説明）

鈴木幸雄議長 ただ今の説明に御意見、御質問がございましたらお願いします。

益子課長 すいません、補足説明をお願いします。

鈴木幸雄議長 お願いします。

益子課長 資料の方でちょっと補足させていただきますけども、今回、特別採捕許可を出していることについての御報告となっております。漁業者委員の皆様はよく御存知かとは思いますが、今週の土曜日ですね１月２１日から２月末までがワカサギの採捕禁止期間となっておりますので、張網で魚を獲っていただく部分についてワカサギが対象になってしまうので、特別採捕許可を出しております。

でありますので９番の採捕期間が、１月２１日から２月末となっておりますが、実際漁協さんの事業はそれ以前から始めていただいているというところでございます。

また採捕数量などにつきましても、ある程度余裕を持って、漁協さんの方から申告していただいた数字で、許可をお出ししましたということで、漁協さんの方から提出のあった申請内容を取りまとめて今回御説明させていただいたというところでございます。

以上補足でございます。

鈴木幸雄議長 はい、何か御意見、御質問がございましたら、お願いします。

（委員） （特になし）

鈴木幸雄議長 ありませんか。

それでは、ないようですので、次に（４）その他ですが、まず、県の方からありましたらお願いします。

海老沢支場長

(挙手)

鈴木幸雄議長

はい、お願いします。

海老沢支場長

水産試験場内水面支場の海老沢です。

前々回の11月の本委員会におきまして、きたうら広域漁協の海老沢委員の方から、最近4年連続で不漁になって大変困っていると。その要因と特に、水門が閉まることによってどのような影響を受けているのかということの説明してほしいという御要望がございました。

それを受けまして、昨年12月に組合事務所で海老沢委員に、現時点で考えていること、あと水門の影響につきましては、過去、こういった研究の報告が出されていると、そういった内容を御説明させていただき、また1月12日きたうら広域漁協の役員研修会の場で、説明させていただきました。

その内容と同じものではございますが、この委員会でも、御説明させていただきたいと思っておりますので、少々お時間をいただきたいと思っております。

根本部長

(プロジェクターにより説明)

内水面支場の根本です。

それではきたうら広域漁協に御説明した概要について説明させていただきます。

まず、スクリーンの方を見ていただきたいと思っております。

海老沢委員の方から、長期的に霞ヶ浦北浦の漁獲量が、現在のようになくなってしまったというような理由を、今までの知見も含めて整理してほしいということがありましたので、まず最初に霞ヶ浦北浦の漁獲量の推移とその生息環境の変化について御説明をしました。

このように漁獲量について、昭和29年から、近年のものまでの変化を見たところであります。それに漁獲量の変化の背景として、このように常陸川水門の完成とか、霞ヶ浦総合開発による築堤とかですね、あとは総合開発事業の終了が水門の完全閉鎖とか、そのような事象があったということの説明をしています。

漁獲量は昭和53年に最高値になりますけど、そのあと漁獲量は減っています。そのほかには外来魚についてですね。ブラックバス、ブルーギルなど、そして、アメリカナマズなどが増加して影響があったというよ

うなことも説明しております。

次に霞ヶ浦北浦の漁獲変動と生息環境の関係について過去の内水面支場等の知見を整理したものを示しております。

最初に、水門の設置運用により、湖内と下流の利根川との水の交流が変化して、産業生活排水の増加に伴い有機物等が増加したことで、湖内の水質底質環境が変化したこと、そして植物動物プランクトンがその影響を受けて、漁獲量にも影響したとの報告があることを紹介しました。

また、2番目として、湖岸の水生植物帯は、ワムシ等の魚類の初期餌料が豊富に生産される場であり、また、魚類の産卵場としても重要な場ではありますが、コンクリート護岸の整備により減少しているとの報告があるということを説明しました。

3番目としまして外来魚の増加と、その食害によって水産資源に影響を与えたとの報告があるということを説明しました。

そのような説明の根拠として、このような報告があるということを、下の段なんですけど、ちょっと小さくて見づらいんですが、そのようなのを整理して、お示ししました。

最後に令和元年以降の、北浦における不漁についてはこれまでの知見を再検討しながら、現時点での不漁と環境等の関係性について原因究明に取り組んでいることを説明しました。

令和元年以降の近年の不漁要因については、次の資料から説明いたします。

山崎主席研究員

(プロジェクターにより説明)

それでは続いては、内水支の山崎から、令和元年以降の不漁について、御説明いたします。

この図は、魚種ごとに、ワカサギ、シラウオ、エビ、ゴロの漁獲量を、平成14年から令和2年まで示してあります。

令和元年以降は、どの魚種についてもシラウオを除いて減少傾向にあります。特に令和になってから、この黒で示した北浦での漁獲量がどの魚種でも、減ってきてしまっているということで大きな問題になっているところです。

次に各魚種についての検討してきたことについて御説明いたします。

ワカサギにつきましては、夏の高水温がワカサギの密度を下げたということで、令和元年、2年は夏の水温が非常に高く、30度を超えるような日が長く続きました。冷たい水に主に分布があるワカサギについて

は、夏の高水温が悪い影響をしたということで、漁獲量で見ると、7月に解禁になって、8月、9月と、毎年漁獲量減って、特に令和元年と2年は一隻あたりの水揚げを見てみると、北浦の方で減り方が増えています。それまでだと3割、4割、多くて5割ぐらいでしたが、令和元年、2年については、7月から8月に7割ぐらいが減って、高水温でワカサギが減ったのではないかと考えております。

ワカサギの親と子供の関係をみると、ワカサギ今の時期12月ぐらいに卵を産む親がどのぐらい残っているかということが、大事なことになります。12月のワカサギの親の量が多く残っていると次の年は多くなるという関係があります。先ほど話した令和元年、2年は、親の量が夏場に死んでしまって、少なくなったことが、その次の年の子供の量に影響して、不漁の要因になってしまったというふうに考えております。

次にシラウオについて、一つは産卵場、北浦の卵を産む場所が減ってしまったのではないかという心配がありましたので、去年の3月に、北浦の主な産卵場となっているところで、底の砂を取って粒径、泥なのか砂なのか砂利なのかということで調べました。

それを見ると、今から15年ぐらい前に同じような調査をやっていますが、去年の調査と比べると、15年前と比べて、底の砂の状態は大きな変化がなくて、特にその産卵場の底の環境が悪くなったということはなく、不漁の要因にはなっていないと考えられました。

それから夏の高水温について、シラウオについても同じように水温と、捕れ具合について7月、8月、漁獲量が減ったかどうかというところで見ると、ワカサギについてはこのように、令和元年、令和2年に、7月、8月で減っていますが、シラウオについて大きな変化はなくて、夏の水温で、いなくなったということはないだろうというふうに考えております。

それでは何がシラウオが減った原因になっているのかということで、その他に小さい餌となるようなプランクトンについて、調べた結果を説明します。

一つは3月、4月の頃に、陸上から水を採って、岸に近い方のプランクトンを調べています。これを見ると、最近は少し減ってきてはいますが、長い期間で見ると、中くらいの水準にあるということで、特に、急激に餌が減っているということはありませんでした。

これは調査船で湖の真ん中から水を採って、同じようなプランクトンを調べている結果ですが、ここ長い20年ぐらいで見ると、ここ数年少し

、霞ヶ浦も北浦も、令和になってから、量が減っているような傾向があ
って、ここ10年ぐらい前の多かった頃と比べると少し減って、昔の平成
20年より前の水準と同じような水準になっていることが見えました。

あと、併せてイサザアミについても調べていますが、北浦については
、令和2年以降で、調査の中で、水を採ってきて、イサザアミが見ら
れないということで、こういったプランクトンと魚の減っている関係に
ついて、何が関係しているのかっていうところを今、検討しているところ
です。

それからエビにつきましてはいくつか検討をしています。

一つはアメリカナマズがやっぱり増えていて、それが悪い影響をして
いるんじゃないかということで、トロールでの漁獲量からどのくらいナ
マズがいて、餌はどのくらい食べるかということをざっと計算してみると、
漁獲量を上回るようなエビが、捕食されている可能性が高いという
こと。

それから二つ目として、岸辺の水生植物帯がやっぱり過去と比べると
減ってきていますので、そういった植物帯が減ったことが、エビの減少
につながっているというふうに考えられます。

あと平成30年に北浦で、強い風が吹いて泥がすごく巻き上がったこと
があり、そういった泥の影響について、水槽で実験をしてみました。

その結果、泥を入れた水槽では、少しエビが死ぬのが見えましたが、
その影響についてはちょっとまだはっきりしていませんので、これにつ
いてはまだよくわからないということです。

あと北浦の方で、小さいエビが生まれているか、船だまりの外側に籠
を沈めて調べています。去年の結果では、稚エビ、いわゆる、小さいエ
ビが7月ぐらいから出てきていて、それがだんだん大きくなっていくと
いうことが確認をされています。

あともう一つ、夏の高水温の影響について、水槽で飼育試験をやった
結果、エビについては水温を上げても、死ぬということはなく、30度
ちょっとぐらいの水温では、死んでしまうようなことは見られなかった
ということです。

以上のようなことを、今検討しておりまして、今後も引き続き、不漁
要因の究明についての検討をしていく予定です。

以上です。

あと、併せてワカサギの、去年のトロールのワカサギがどうだったかということで、資料を持ってきましたのでそれも説明させていただきたいと思います。

令和4年のワカサギの資源水準がどうだったか。それから、霞ヶ浦については、親資源を残そうということで、トロール部会で底層びきをしてワカサギが入るような漁は少し自粛しようという取り組みを、やっていたいております。

その結果について簡単に御説明します。

まずワカサギの資源がどうであったかということですが、7月初めに漁期前調査を霞ヶ浦北浦ともやっていたいております。その時点では、霞ヶ浦では少し多くなっていました。ただ、これは尾数での水準です。去年、令和4年の魚の大きさを見ると、過去10年で最も小さい状態でしたので、重量にするともう少し水準としては下がってきます。

なぜそんなに小さかったかということで、少し調べてみました。

これは5月から9月にかけての水温を示しています。ワカサギは30度以上の水温では非常に厳しい。それから26度を超えると成長が止まってしまうのですが、それより低いときには成長します。去年の推移を見ると、解禁前5月ぐらいのときに、ちょっと水温が低い時期がありました。それ以降で水温上がりましたが、この成長に適した水温というところの、ここの部分が短くなってしまって、すぐに6月の中旬から、26度を超え、成長が止まってしまうような水温が、解禁までの期間に続き、ワカサギにとってはあまり成長しやすいような条件ではなかったということで、解禁時の大きさが小さかったと考えています。

一方で10月以降は比較的水温が高かったので、成長が良くなってきて、11月、12月には最近の平均よりも少し大きいというような状態になってました。

それで獲れ具合、一隻1時間でどのぐらい獲れたかということで、CPUEということで見ているんですけども、赤が去年、令和4年ですね。解禁当初から、やっぱり低い状態。解禁時の量が少なかったというふうに考えています。9月以降はほとんどワカサギ狙いの操業はなくなってシラウオやエビに移っていました。

今12月時点でどのぐらいの量がいるかということで見ると、去年は、令和3年の水準と同じぐらいの水準ということで、低い水準になっているというふうに考えております。

北浦についても、ここ4年間、不漁ということで、当初から低い水準

できていて、今の水準としては、去年は令和3年と同じ程度と考えています。

続きまして、霞ヶ浦で行われたトロールの底をひく漁の自粛ということで、11月20日から12月末までその取り組みが行われております。

操業した人に日誌を書いていただいて、延べ14人の方に協力をいただきました。

この期間の操業は皆さんシラウオ狙いということで、ワカサギを狙った操業はありませんでした。日ごとに、浮かして獲るのか、少し中層びきをやるのかということで見ると、浮かしで獲った人、沈みで獲った人、人とか日数がほぼ半分ぐらいの状態になっていました。

獲れた量ですけれども、シラウオ狙いですので、ほぼシラウオが毎日獲れていて、シラウオで14トン、ワカサギが1トン少しということで、シラウオ獲る中にはワカサギが混じってきているということです。

それで、これはワカサギについて、浮かしで獲ったときと沈みで中層で獲ったときでどのくらい入り方が違うかということで見ると、浮かしでひいたときは、大体1時間あたり、1キロぐらい獲れていたのが、中層をひいたときには、3倍の3キロぐらいが獲れていました。

シラウオについては、浮かしと沈みで、そんなに大きな差はなくて、大体20キロぐらい獲れているんですけれども、これは浮かしでも沈みでも同じくらいかということではなくて、これ平均ですので、人によってはやっぱりひき方で、底をひかないとシラウオが少ないというようなこともあって、それぞれの漁業者の方が、浮かしを選ぶか沈みを選ぶかということで、操業していますので、特に沈みをやった場合には、雑魚、フナとか他のものがたくさん入りますので、そういったことを避けて浮かしでやるという人もかなりいらっしゃいます。

実際こういう操業をして、どのぐらいワカサギが保護されたのかということ計算してみました。

浮かしでやった場合は、ワカサギは10キロ未満のときがほとんどで、沈みでやった場合には多いと20キロぐらい入るといふ時もあります。

この部分10キロ以上のところが沈みでやったときだけ増えるということで、平均すると大体15キロぐらいの量が沈みでやったときに獲れるだろうと仮定し、何も調整しないで底に沈めてひいたときにはどのぐらい獲れたかということで試算すると、3.8トンぐらいのワカサギが獲られたのではないかというふうな計算がされます。

実際には獲れたワカサギは1.3トンでしたので、操業の自粛で、大体

2.5トンぐらいが獲り控えされたらというふうな計算がされました。

今回日誌を書いていた人が14人ですので、大体今の時期だと50隻ぐらい操業し、全員が底びきでやりませんので、半分ぐらいは底びきをやるということで計算すると、4.5トンぐらいが、今回の自粛で獲り残され保護されたと計算がされております。

これが全部が全部、次の年の親になるという計算に単純にはならないんですけども、12月時点でのワカサギの資源を残そうということで、効果があったのではないかと考えております。

以上です。

鈴木幸雄議長

それではただ今の、水産試験場からの説明について、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

5 番相崎守弘

(挙手)

鈴木幸雄議長

はいどうぞ。

5 番相崎守弘

前回か前々回の会議の時に、2009年ぐらいですね、生産量が非常に上がったというようなことがあったので、その原因を考えたほうがいいのではないかと言ったんですけども。

それで、調べてみたんですけど、その年は、霞ヶ浦北浦が、全国でワーストワンの水質汚濁、CODで見たときに、一番高い値になったというそういう年。COD値が高いときが4、5年続いたんですけど、その期間は非常によく獲れていたと。漁獲量があったということで。それはどういうことかという、いわゆる植物プランクトンの生産量が高く、基礎生産がかなり高いときによく獲れたのではないかと。

今、結構泥濁りによって、光が今、栄養塩ではなくて、光が制限になっている可能性が高いので、そういうことで、基礎生産自身が非常に落ちているのではないかと思う。

そのへんのところを検討していただいて、泥濁りをなんとか抑えることを考えていかないと、もうそのままずっと低いままで終わっちゃうんじゃないかなという気がしますので、ちょっと検討していただければというふうに思います。

鈴木幸雄議長

試験場の方で。

山崎首席研究員

ありがとうございます。

それで今、相崎委員がおっしゃられたように、やはり昔白濁水ということで、濁りがあった時があるんですけども、それが続いたときにはやはりワカサギの資源も非常に少なかったのかなというふうなことがありましたんで、それが解消されて、一時、資源が多くなって、増えてきたんですけども、今おっしゃられたような、そういったその濁りの関係のことも、やはり最近の資料をよく見直して検討させていただきたいと思います。

5 番相崎守弘

あと、基礎生産がどの程度かっていうのは、PHのですね、変動を見ると、よく獲れていたころは結構PHが9とかですね。そのへんまで上がって高いときは出たんですけど、最近多分8の後半になってないんじゃないかと思うので。そのへんの状況を見ると、基礎生産はどのくらいあるのかっていうのは、そういうのは定性的ですけども、わかりますので、そのへんもちょっと検討してみただけるといいかと思います。

根本部長

霞ヶ浦環境科学センターとも連携しまして、データの検討をさせていただきたいと思います。

鈴木幸雄議長

よろしくお願いいたします。
その他にありますか。

14 番加納光樹

(挙手)

鈴木幸雄議長

はいどうぞ。

14 番加納光樹

すいません。
一つだけなんですけども、イサザアミが全く獲れないっていうのはすごく象徴的な事例なんですけれども、これは、他の湖の場合とか、これまでもあったことなんですか。そのあたりどうですか。

根本部長

イサザアミ、他の湖で、元々いるところが、いなくなったとかいうこと、そのあたりはまだ整理、調べていないので、調べてから検討したいと思います。

14 番加納光樹 例えば霞ヶ浦とか北浦で今まで、全く獲れないみたいなことはあったんですか。

山崎首席研究員 季節的にやはり増える時期って、6月ぐらいに増えて、夏場は減って、年によっては10月末からまた出てくるといようなパターンだと思うんですけども、そういう季節変動があっても、全く獲れなかったということは、ここ10年、20年ぐらいではないのかなと思うんですけども。

それで、北浦の方は、令和に入って、観測をしたときに水を採ってのデータなので、全体でどうかということは、まだ正確ではないんですけども、その観測の水を採った限りではやはり、ほとんどいない状態が続いていますので、ちょっとやっぱり何か変わったところがあるのかなというふうに思っています。

14 番加納光樹 すいません。観測の水を採っている場所っていうのは、わりと広い地点で採っていて、それでも獲れないということですか。

山崎首席研究員 観測、北浦では、北と真ん中と南で各1点で採ってます。

14 番加納光樹 わかりました。

他の動物プランクトンとか甲殻類が増えてるのに、一つだけ獲れないっていうのは、何らかのそうですね、塩分濃度かもしれないし、もしくは捕食しかないんですよ。

だから、ちょっとそこはすごく、重要な気がして、捕食の方だとするとアメリカナマズしかないんでしょうけど、ちょっと私も調べてみたいと思います。

山崎首席研究員 ありがとうございます。
また御相談させてください。

鈴木幸雄議長 他にございますか。

5 番相崎守弘 (挙手)

5 番相崎守弘 今のイサザアミの件なんですけど、イサザアミは塩分がないと駄目なんで、以前、大雨が降ったときに、ほとんど全滅してしまったということがありましたので、その塩分の状況評価も併せて調べてもらおうといいのではないかと思います。

根本部長 霞ヶ浦と北浦で、そんなに塩分が、変わらないのですが、それでも北浦の方だけイサザアミがいないという状況です。もう一度よく地点別にみてから検討したいと思います。

鈴木幸雄議長 他にございますか。

3 番大崎匠 はい。（挙手）

鈴木幸雄議長 はいどうぞ。

3 番大崎匠 今年は大分、イサザアミが多く入ったようなんですが。
相崎先生、加納先生、委員でいますけど、もう専門的なことはもうお任せして。もう何て言うか、魚体の大きさ、全然、土浦入りと、湖心に近いほど、大きくなるシラウオなんです。そういった経験上、どのようにみているのか。業者さんとしても、大きさが違うと買いにくいというところがあるんで、そのような調査はしているのかどうか、ちょっと確認したいと思います。
よろしく願います。

山崎首席研究員 シラウオにつきましては月1回ほどサンプルの測定をしているんですけども、やはりばらつきが大きいのは、ありまして、場所によってとか、上と下で違うのは把握しております。
それが何の影響かというところまでちょっとまだはっきりしないんですけどもシラウオは、イサザよりも小さいカイアシ類ってミジンコとかあとは、ケンミジンコという餌を食べているんですけども、その量は水域によって違うかっていうところ、まだそこまでは検討しておりませんので、そういったところをみていきたいなと思っています。

3 番大崎匠 ありがとうございます。
暮、12月になっても、大分、解禁時のような小さなやつが相当混じっ

ていましたので、そのへん業者としては買いにくいのかなと、そういうふう思ったんで御質問させていただきました。

山崎首席研究員 あともう一つは餌と併せて、やっぱり生まれた時期がかなり長いのかなということもありますので、そういったことも調べていきたいなと思っているんですけども。ワカサギに比べてシラウオの産卵時期が長いと思いますので、その年によって卵が生まれた時期が違ってそれがだんだんそうなってきて、大きさにばらつきがあるということもあるのかなと思っております。

3番大崎匠 ありがとうございます。

鈴木幸雄議長 他に、何かございますか。

(委員) (特になし)

鈴木幸雄議長 それでは、特にないようですので、県の方から他にありますか。

鈴木幸雄議長 ありませんか。委員の方からその他、何でも結構ですのでありましたらお願いします。

(委員) (特になし)

鈴木幸雄議長 ありませんか。それでは、特にないようですので、以上を持ちまして本日の委員会を終了いたします。

皆様の御協力、ありがとうございました。

岡部局長 長時間にわたりまして、御審議いただきありがとうございました。
次回開催ですけれども、先ほど公聴会の開催について協議いただきましたとおり、次回開催は2月16日に公聴会、そのあと委員会を予定しています。それでは、これを持ちまして委員会を閉会といたします。
ありがとうございました。

閉会 午前11時26分

上記の記録の正確なことを認め署名する。

令和 年 月 日

議 長

議事録署名人
